

随想

随想

ChatGPT (新世代人工知能) に ついて

(株) P P Q C 研究所 加藤 宏光

ChatGPT(Generative Pre-trained Transformer) という言葉... 例によつて朝のドライブ中にYouTubeで紹介された番組であった(東京新聞・清水氏の話)...

ChatGPTとは連続するデータ列の関連性を追跡し、データの登場する順番やパターン等を学習していくことで文脈や意味を学習させるニューラルネットワーク処理(神経システムシミュレーション)を可能とする人工知能・著者(加藤)補足)である。

しかし、現在のAI技術に限界もある。技術の基本は、世の中の単語列やそれらの関連性を膨大に学習させることで、的確な要約文を生成し、意味の通る文章を創るための推論を行う。

いずれにしても、その文章作成能力はこれまでのモノとは格段の差で、場面によってはヒトが作成するものと遜色ないと評され、怖れを抱かせるほどのものとも評価される。

判定できず、かつ盲信してしまうことから生じる社会問題も生じかねない。番組名を失念してしまつたが、あるテレビ局で放映された『ChatGPT』の紹介に際して、これを用いて、複数キャストが登場させた短編小説を書かせる実験と、夏目漱石の『坊ちゃん』に対しての読後感想文を作成させる試みがなされた。

若者を肯定的に見ているこの(ChatGPTの)書評は、著者の中学校時代に坊ちゃんを読んだ印象にほぼ近い。一本気で、若者独自の正義感をもつて、大人の世の中の曖昧さや嘘、矛盾にイライラしていた自分を思い起こさせる書評である。

理解すれば、中高生やChatGPTの読後感となるが、さまざまに人間性に判断を前提とする現実社会の判断であれば、坊ちゃんは青臭い大人であり、正義感に基づき行動は時として潤滑な社会活動を阻害しかねない。

の資本金を集め、設立当時から注目の的となつた。チーフサイエンティストは米グーグルでAI開発を主導したイリヤ・サツキバー氏、開発のリーダーは機械学習の一種「強化学習」の第一人者であるジョン・シュルマン氏... 二〇一九年三月には営利企業「OpenAI LP」を設立。

「坊ちゃん」は、一本気で正義感の強い若者で、東京物理学校(現東京理科大学)卒業後、数学の教員になり松山市に勤務。中学校という社会の中で、閉鎖的で矛盾のある環境で正義感をもつて対抗する物語。

もつとも、このような一本気な正義感は教師という職業人であると同時に社会人として教育以外にも社会活動をされていた当時の先生方(著者を教えてくたさつた方々)には、可愛くも青臭くも映つていたものと思う(中学生時代の著者の担当教師は、各自生徒との交換日記を毎週やり取りし、それを通してのさまざまな指導をされていた)。

そうした人間集団において、ChatGPTによる誤謬を含むかもしれない判断が、現実の社会に具体的な悪影響を与え始めるかもしれない。AIがもたらす人間社会への影響が是非かは結局人間がどう判断するかにかねらわれているのだ、と感じながら、番組を見終えた。

注1: OpenAI(日経ビジネス、三月十七日、島津翔・シリコンバレー支局による)・現CEO(最高経営責任者)であるサム・アルトマン氏や米ツイッターCEOのイーロン・マスク氏が非営利のAI研究機関として設立。一〇億ドル(約一、三六〇億円)も

正義感をもつて、閉鎖的な学校社会に敢然と立ち向かう

《坊ちゃん》のストーリーを標準どおりの正義を尺度として

注3: 認知力のないAIにユーザーとの会話から学習結果をえるプログラムと、一般公開に際して道義的な問題が出ないよう、場合によつて答ええない、というプログラムがされていると